

ON AIR

NO. 116

放送大学通信 オン・エア

発行月 2014年12月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
043-276-5111 (総合受付)

CONTENTS

大学院博士後期課程第1期生入学にあたって	1
学習センター所長座談会	6
面接授業紹介	10
オンライン授業の開始にあたって	12
放送大学の国際活動について	13
研究室だより	14
学習センターだより	15
2015年度開設改訂科目紹介	16
インフォメーション	20



大学院博士後期課程 第1期生入学にあたって



大学院博士後期課程が10月からスタートしました。4日にはオリエンテーションと授業が行われ、12名の新入生は「社会人研究者」として、博士号の取得を目指します。放送大学大学院博士後期課程は第1期生を迎え、生涯学習の新たな高いステージに挑みます。

放送大学は2014年度より新たに博士後期課程（博士課程）をスタートしました。第1期の入学生受入開始は2014年10月1日からですから、正に生まれたばかりのところですよ。これで学士、修士、博士とすべての学位授与が可能となりました。

ところで、今迄博士課程を持っている大学の多くはいわゆる総合大学で、それぞれの分野に多くの教員がいます。それ故、特定の専門分野に特化した高度な研究者の育成を主たる目的にしています。一方、放送大学は、「教養」という特定専門分野に偏らない広い分野を、たった100名以下の専任教員でカバーしているというやや特殊な形態となっています。その上にどのような博士課程を作すべきかが、もっとも注意深く議論されました。

その結果、自分の専門分野での研究の進め方をマスターしているだけでなく、欧米の博士のように、広い教養をも備えた人材を育てようという結論に至りました。俗にT字型人材育成と呼ばれて

いるもので、縦の深い専門知識だけでなく、横にも広い教養知識も持ってもらおうというものです。このため、主1副

2の3人の指導教員体制としました。少なくとも1名の教員はまったく異なる分野となります。また、講義体系も、広い分野の育成が必ずなされるように工夫されています。

一般的に、日本の博士取得者は、自分の学んできた専門分野に固執し、時代の変化に対応しづらい、使いづらいと言われることがあります。T字型人間は恐らく広い分野に関心を示してくれるのではないかと期待があります。

さらに、遠隔教育を基礎とし、遠方に居住している院生もなるべくインターネット経由で学習したり指導を受けられるようにし、やむを得ず本部において指導を受ける場合も、最小限の拘束日程



放送大学長 岡部 洋一

ですむように工夫しました。このため、家事・仕事などを持った社会人にとって、比較的楽に参加できるのではないかと考えております。すでに社会人であり、かつT字型に育成された博士は、将来、仕事や社会や地域におけるリーダーとしての役割が期待されています。

教員の総数が少なく、かつ各学生に3名の指導教員がつき、さらにあまり日本では例のないT字型人間の育成という新しい教育体系にチャレンジするため、当初は定員10名というスリムな体制でス

タートすることとしました。このため、初年次には20倍という高倍率となりましたが、定員を若干上回る12名の学生を受入れました。職業分布、地域分布、専門分野の分布、男女比、年齢分布、本学修士修了か否かなど、いずれも広く分布しております。

以後は毎年4月入学として学生募集を行います。また、倍率も徐々に安定化していくことが期待されます。関心のある方はぜひ応募いただきたいと思います。

博士後期課程 オリエンテーションが 開催されました

10月4日(土) 附属図書館大会議室で、博士全科生第1期生を迎え、放送大学大学院博士後期課程の初めての入学時オリエンテーションが開催されました。

当日は、第1期生12名のうち10名の方が出席され、山田知子教授(生活健康科学プログラム)の司会のもと、宮本みち子副学長のご挨拶から始まりました。宮本副学長は入学のお祝いの言葉と、博士全科生第1期生への期待を述べられました。

また、各プログラムについて主任の先生方から紹介があり、岩永雅也教授(人間科学プログラム)から、これから始まる博士後期課程履修カリキュラム

の説明がありました。

午前中のオリエンテーション終了後、午後には各プログラムで特論の授業がありました。生活健康科学プログラムでは、主研究指導教員と副研究指導教員、博士全科生全員でテーブルを囲んで特論をおこない、自然科学プログラムでは講義形式で特論の授業をおこないました。

博士全科生の皆さんはこの3年間でさらに研究を進め、博士論文を完成させることを目指します。博士後期課程への入学をご検討の方はP5の出願スケジュールをご覧ください。



オリエンテーションの様子



生活健康科学プログラム特論



自然科学プログラム特論





生活健康科学 プログラム

井出 訓 教授

放送大学博士後期課程第1期入学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。放送大学における博士後期課程の設置に関するニュースが流れ始めて以降、在学生や卒業生をはじめ多くの方々が当大学院への関心を示してくださり、生活健康科学プログラムの第1期生選考試験も、想像以上の高倍率でありました。今回入学された第1期生の皆さんは、見事にその難関をくぐり抜けて選ばれ、新たな学びを始めようとスタートラインに立っているわけです。新たな学びへと向かう思いは、入学生お一人おひとり違うとは思いますが、生活健康科学プログラムとしては皆さんに、博士前期課程で習得した能力を基礎に、より一層高い創造性と表現能力に加え、幅広い教養に支えられた指導性の研鑽、さらには自立した研究・実践者として学問の固有性を追求しつつ、分野を超

えた開拓的研究・実践活動を行い、生活科学、健康科学、社会福祉学、およびそれらの学際領域において、人々の社会生活に資する具体的に研究・実践活動を展開しうる能力を身につけていただきたいと期待しています。大学院博士後期課程を担当する教員一同も、初めて迎える博士後期課程の学生の皆さんへの期待を高めつつ、もう一度自分たちの研究や実践の足下を確認しながら、授業や研究指導等の準備をはじめています。質の高い良き学び舎としてこの生活健康科学プログラムの博士後期課程がこれから先もしっかりとした基礎の上に建ち続けていくことを願い、学生の皆さん共々、担当する教員一同も努力を続けてまいります。学ぶことの喜びを分かち合いつつ、ともに堅実な歩みを進めていきましょう。



人間科学 プログラム

小川 正人 教授

2014年10月4日に開催された博士後期課程第1期入学者のオリエンテーションは、ささやかなものでしたが、設置認可までの紆余曲折の日々を考えると感慨無量の思いがあります。「社会人研究者」の育成というまったく新しい課題に取り組む不安も無い訳ではありませんが、それ以上に博士後期課程のチャレンジングな試みに決意を新たにしています。

博士後期課程の設置により、学部、修士課程の教育・研究を体系的に構築できる環境を整えることができました。特に、修士課程の教育・研究を見直すうえでその意味は大きいと考えています。修士課程の修了者全てが博士課程に進学することを前提にはしていませんが、博士課程への進学意欲と能力を有する院生に対する修士課程の教育・研究をより長い見通しで考えられることは、院生のみならず教員側

にとっても研究のインセンティブとなります。ただ、本学の博士後期課程にどれだけの出願者がいるかは不安でもありましたが、第1回、第2回入試で期待以上の出願者数がありそうした当初の不安も払拭されました。むしろ、博士後期課程の進学を想定して新たに放送大学の修士課程に進みたいという相談を受けることも多くなりました。博士後期課程の教育・研究が学部と修士課程に相乗作用し放送大学全体の教育・研究の質向上に貢献できるかどうかは、まさに、今後の博士後期課程教育の実績にかかっているといえます。社会人院生と教員が切磋琢磨し刺激的で張りつめた放送大学らしい研究的風土が創りだされることを期待してもいます。ともに頑張りましょう。





社会経営科学 プログラム

山岡 龍一 教授

新しいチャレンジ

放送大学の博士号はチャレンジである。この学位の伝統は、少なくとも13世紀ヨーロッパにまで遡れる。それは特別な専門的知識・技芸の持ち主に与えられてきた。つまり少数の選ばれたエリートへの称号だった。この性質は現在でも変わらないが、時代の変化も見逃せない。いまや世界中に、そして日本に、大量の大学が設立され、そこでは毎年かなりの数の博士号が授与されている。

もちろん、今でも博士号は希少であり、依然として重要な価値が認められている。したがって現状は、価値の相対化を被りつつも、博士号はその特権性を維持している（その価値がコストに見合うものかどうかは、今後ますます問われそうだが）。ここでの「相対化」は、民主化とも言える。民主主義の中核

的な意味は〈素人の政治〉なので、専門家の特権が、次々と普通の人びとへと普及・拡散しているプロセスは、民主化と呼んでよいだろう。

こうした民主化が、それ自体として絶対的に善いかどうかは問わないとして、放送大学の博士後期課程は、このプロセスをさらに先に進めるものと言える。したがってそれは少なくとも三重の意味でチャレンジとなる。第一に、それはどこまで民主化ができるのか、という挑戦である。第二に、それにもかかわらずどこまで専門性や質を追求できるかが問われる。そして第三にそれは、少なくとも日本では、まったく新しい試みとなる。院生、教員、そして職員が一丸となって、このチャレンジを成し遂げたい。



人文学 プログラム

内堀 基光 教授

博士後期課程が動き出し、10月入学の2014年度入学の第1期生は、人文学プログラムでは3名ということになった。このプログラムで博士後期を担当する教員は7名。専門は文学（日本、英国）2名、言語学1名、美学1名、歴史学（日本）1名、社会文化人類学2名である。通常の大学院人文系のあり方から見たら、ずいぶんと変わった構成に見えるにちがいない。現員の教師陣を前提にして、しかもただでさえ年齢層がひどく高い構成の本学で、3年間後の完成年次まで現役で勤め上げることのできる者、という限定で、設置審の審査を通ったのだから、まあやむを得ない変則状態だと諦めるよりほかない。完成年次を過ぎれば、ある程度の自由が効くようになると期待できるので、それまでは充実一歩手前の状

態と考えれば良いか。それにしても、ある種のめぐり合わせとはいえ、哲学あるいは宗教学の

ような、放送大の大学院修士課程では人気の領域を含むことが出来なかったのは残念である。放送大の場合、自分の専門とするプログラム分野の外から副指導教員をつけることになっているのは、ことによるとこの不足を埋めるという効能があるのかもしれない。幸いと言うべきか、本プログラム第1期生の方々はすべて高等教育機関で教育研究に携わっている人たちであって、放送大のこうした苦しい状況に大いなる理解を示してくれている。力と情のある院生諸氏を迎えることができ、まずはホッとしたところである。





自然科学プログラム

隈部 正博 教授



自然科学プログラムでは大きく分けると2つの領域から博士課程が構成されています。1つは「生命、物質」、もう1つは「数理、情報」です。具体的には、数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学、情報科学、及びこれらの学際領域です。研究活動というものは、思い込みではなく客観的に、一面的であるだけでなく総合的に、さらには長期間にわたり辛抱強く自立的に続ける（粘る）ことが必要です。このような能力を持った人物の育成を我々は目標にしています。そして自然科学に関する様々な難問に対して、自由な発想と的確な着目点をもってアプローチし、その背景と原因を見出だし、そして問題解決に取り組む能力を発揮してほしいと考えています。このように実践に活用することで社会に貢献

できる人物であって欲しいのです。また各学問領域の未解決な問題を解明することで、より完成された体系化を目指して、小さな一歩でもいいので着実な貢献が出来るような研究成果を作り上げてほしいと思います。

博士課程の第1期生が入学されました。オリエンテーションも終え、ゼミも始まりました。第1期生のみなさんには、何年か後に、心から満足いく博士論文を是非書いて、それを世に残して欲しいと思います。そしてそのことが皆さんの人生にとって大きな区切りとなってもらいたいと思います。そうならば我々も嬉しい限りです。

博士後期課程第1期生の入学者選考結果、 2016年度入学者選考スケジュール

放送大学大学院博士後期課程は、2014(平成26)年4月に設置し、同年10月から学生受け入れを開始しました。2014(平成26)年度大学院博士全科生入学者選考の結果は、次のとおりです。

プログラム名	募集人員	出願者数	合格者数	入学者数
生活健康科学	10名	53名	12名	12名
人間科学		60名		
社会経営科学		57名		
人文学		53名		
自然科学		40名		
計	10名	263名	12名	12名

入学者の職業内訳は、教員5名、公務員・団体職員等4名、会社員等2名及び自営業・自由業1名となっています。

2015(平成27)年4月入学の博士全科生の募集は既に終了しています。2016(平成28)年4月入学の博士全科生に係る学生募集要項の配布は、2015(平成27)年6月中旬を予定しています。



社会人と芸術



筑和 正格 北海道学習センター所長(ドイツ文学・都市文化論)

宮野モモ子 千葉学習センター所長(声楽・音楽教育学)

柴 真理子 東京足立学習センター所長(舞踊学・舞踊教育学)

石川 充宏 高知学習センター所長(金属工芸・鍛金)

司会
青山 昌文 教授(美学・芸術論)



(左から)青山昌文教授、宮野モモ子所長、
石川充宏所長、柴真理子所長、筑和正格所長

放送大学本部を囲む広葉樹の葉が色づき始めた10月末、芸術の分野をご専門に研究されている、北海道・千葉・東京足立・高知の各学習センター所長にお集まりいただき、青山昌文教授の司会進行のもと、座談会を開催いたしました。テーマは「社会人と芸術」。どんなお話が展開されたのでしょうか。誌上にてお届けいたします。※本文中は敬称略とさせていただきます。

青山 本日は、お集まりいただきありがとうございます。早速ですが「社会人と芸術」というテーマで縦横無尽に語っていただきたいと思います。まず先生方の簡単な自己紹介と、学習センター所長として間近に接しておられる学生たちの中に芸術分野で注目すべき方がいらっしゃいましたら併せてご紹介ください。

宮野 専門は声楽、そして音楽教育です。千葉学習センターに赴任して1年7か月になります。……そうですね、注目すべき学生としてすぐ目に浮かぶのは88歳のご婦人の方です。多方面の芸術を嗜まれ、陶芸に書、そして絵画サークル

ではとても雰囲気のある絵をお描きになられます。合唱もなされ、音程もしっかりしていてその歌声はとても音楽性豊かなものです。先日の秋祭りでは、私もその合唱の輪の中に参加させていただきました。皆が和して一緒に歌うことで、音楽性が深く、そして広く備えられたらいいなと思っています。

石川 専門は鍛金という分野の金属工芸です。所長になって7年目を迎えております。ある60代後半の

学生の方は、現役で陶芸の仕事をされており、今年も4、5回目となる日展入選を果たされています。

柴 専門は舞踊学・舞踊教育学です。このように言いますと「えっ、舞踊って学問なの？」と言われますが、学問的に「人間はなぜ踊るのか」というテーマを研究しております。東京足立学習センター所長となりましたのはこの4月と日が浅く、学生との出会いはこれからですが、面接授業等の教育の中でどのジャンルの舞踊を設定して学生たちと出会うのがよいか、実践的に、そして理論的に考えております。

筑和 所長になって5年目です。専門はドイツ文学で、都市と文学の関係に非常に関心があり、社会的な手法も採り入れながら研究しております。ある学生の方は、札幌市の近代美術館で学芸員補佐のような仕事をなされ、かなり専門的に芸術に関わられておられます。卒論も「ジャポニズムについて」というテーマで浮世絵を取り上げたものでした。

青山 ありがとうございます。ご紹介いただいた学生の方はいずれも社会人で、日常的に、あるいは専門的に芸術に関わられておられるようです。このような社会人の学生と、他の大学に通う若い学生との間には、芸術への接し方の違いといったものがあるのでしょうか。



宮野 以前の勤務先である一般の大学の学生と比して思いますのは、“熟していく”ということでしょうか。芸術には技能面ばかりではなく、芸術性、あるいは創造性という質的な面も大切で、年代とともに後者が“熟してくる”、そして芸術を選択する目、より深めようとする目が育っていく、そんなことを放送大学の学生の方を見て感じております。



石川 私も若い学生に教えた経験がありますが、彼らは作品に対峙するとき、作家になろう、美術教員になろうという、将来専門的に美術の道に進むためのアカデミックな関わりを持って

おりました。ところが放送大学の学生の方にはそれは必要ありません。文化祭で絵画や写真等の作品を講評するのですが、自分が表現したいものを純粹にまっすぐに出してくる……学生一人ひとりの人間性が見えて実に面白いですね。先週、京都で『国宝 鳥獣戯画と高山寺』展を見て来ましたが、すごい人でした。国宝ということもあるのですが、中高年の方々の美術への関心の高さには驚かされます。このことから放送大学の学生は芸術への関心が高いと言えます。

青山 柴先生は長い間若い方をご指導していられています。どんなことをお感じになりましたか。

柴 日本では舞踊は芸術と認められにくい、という現実があります。中学・高校では美術と音楽の授業はありますが、舞踊はありません。舞踊がどのようなものか考える機会が若い時分から与えられていないのです。最近になってダンス必修化の動きはありますが、体育に組み込まれたものです。そこで、私は神戸大学とお茶の水大学で一から指導してきましたが、そこでも舞踊は体育のカリキュラムでした。確かに身体が素材ではありますが、同じ3分走るのと踊るのとでは大違い、舞踊には同じ動きの繰り返しはないのです。そのため、舞踊には別な能力も求められます。そんな指導を続ける中で思ったのは、若い人の動きが鈍くなっている、ということです。その傾向に符合してマスコミに「すぐキレル」という言葉が踊るようになりました。ですから、人間、身

体の動かし方が変われば感情も変わってくる、と強く感じています。例えばこのような動き（ゆっくり片手を振り下ろすポーズ）とこの動き（片手を素早く横に動かす）では心のありようが違ってきます。また、私は精神科医と組んでセラピーも行っていますが、うつ状態の人に“元気になって”と外から言葉で言ってもダメ、“一緒に動きましょ”とお誘いし、身体を動かせば心も動き出す、そんな実践も行っています。つまり、「身体の動き」と「感情」は一体なのです。そこに「呼吸」が加わります。一人分の呼吸が二人分の呼吸と合わさり、それが三人、四人と広がることで、三者は一体となって相互理解が深まっていく、そのように思います。

芸術は「虚構」、芸術は「表現」、 年齢とともに多様で 豊かになるその解釈

青山 筑和先生は都市と文学に関心がおありと先ほど伺いました。大都市・札幌にいらしてどんなことをお考えですか。

筑和 19世紀後半のベルリン社会を描いた作家を研究していた関係で、西ベルリンの大学に留学しました。壁に囲まれた不思議な街だなとの印象を持ちましたが、そこから「文学=虚構」と



筑和 正格 所長

「都市=現実」の観点からその都市独特の文化や住む人の感性とか価値意識といったことにも関心を持つようになりました。私の住む札幌も然りで、札幌を描く場合に虚構と現実の間にどういう関係があるのか、全く切り離せるものなのか、ということを考えており、面接授業でも2度ほどこのテーマを取り上げています。

青山 「虚構と現実」という言葉が出ました。芸術では非常に重要なテーマですね。

石川 私の場合、確かにモチーフは人体という「現実」ですが、人体デッサンなどはしていません。イメージの中のカタチを表現しています。その際私たちは、自分の世界を創る、という意識——オリジナ

リティを第一に考えています。そのため、特に工芸の場合は技術がとても大事で、技術が得られれば表現の幅が広がり、発想も豊かになります。金属にはどうしても固く冷たいイメージがありますから、私は柔らかく温かいものを表現したい。ですから私の作品には“男性”はありません。

青山 実は私、最近『イヴ・サンローラン』という映画を見ました。彼については、フィクションではないドキュメンタリーも見ていましたが、映画の、つまり作り物のイヴ・サンローランの方が彼の孤独や苦しみを如実に表しており、むしろ虚構の方が現実を強く表しているなと感じました。芸術は虚構とも言えますが、現実以上に訴えるものがある…。音楽の分野ではいかがですか。

宮野 音楽では、「現実」=楽譜があり、この冷凍楽譜を演者がどう技術で解冻し、解釈するかで、多様で新しい世界ができていきます。その楽譜を書いた作曲家を超えて、より深く、より広がりをもって。

青山 モーツァルトの曲を、現代の人間が現代の身体で以て演奏する。そこには自ずと現代的身体性が伴います。「演奏」はヨーロッパの言語では「interpretation = 解釈」です。つまり演奏

することは解釈することでもある訳です。その解釈の多様性が芸術の世界の広がりにつながる訳ですが、若い人より社会人の方が、解釈に幅がある、深みがあると言えないでしょうか。

宮野 現代感覚を身につけるのは若い人が断然早く、表現するのも上手い。一方、年齢を重ねた社会人の方は、今まで身につけたスタイルを維持しながら、という縛りの中で現代を追うことになります。が、経験を積んだ分だけ、生活の中で多様な感性を身につけた分だけ、感受性は多様で豊かです。つまり解釈に奥行きがあり“熟していく”のです。優しさとか思いやりとか、そういうものが音に出てきます。

筑和 楽譜には決まった旋律が書かれているのに演奏する人によって違って来る、というのは面白いですね。文学では、言葉で現実をどう表すか、というのは作家の側にとって100年来の大問題で、それを

比喻とかアレゴリーとかで表そうと頑張ってきましたが、それを解釈する側、つまり我々はどうかという、自分の経験から言いますと明らかに年の功というのはあると思います。感覚は年を取ると鈍くなるかもしれませんが、経験や知識の集積が解釈する目を養い、場合によっては強化するのではないかとさえ思います。

柴 バレエで楽譜に当たるのはノーテーション（舞踊譜）ですが、研究目的で使うならともかく、実際の踊りにはあまり役に立ちません。教わりながら覚える、

あるいはビデオを見ながら自分のものにしていきますが、そこにはやはり解釈が入ります。身体が違えば踊りも違ってきます。その人らしさが出てきます。それは、踊る技術が異なるということだけではなく、その人の人間性が自ずと出てくるのです。日常は生きている身体ですが、舞踊はその身体を鍛錬してなうるものです。つまり、身体は素材であると同時に踊る主体でもあるのです。この二重性にこそ、大学で舞踊を学ぶ意味があります。日常的な身体を鍛錬し、教養という栄養を多く注ぐことで、踊りは昇華されていく、そう考えています。

青山 おっしゃる通りですね。バレエではありませんが、昔教えていた学生で、ポスト・モダンダンスにニューヨークで触れたという方が今踊っておられます。お年を召されて身体能力は劣っても、経験や知識の蓄積が彼女の踊りにはあるわけです。

宮野 音楽も同じです。音楽はリズム、音程、メロディ…といろいろな要素から成り立ちますが、では同じリズム、同じ音程、同じメロディで歌ったとして、その音楽は同じかと言えば違います。そこにはその人のエネルギーや感受性が深く関わります。歌う人が違えば、違うものが表出される、まさに自己表現なのです。…それで思い出しました。他の学習センター所属の方でしたが、私が受け持った面接授業の最後に「先生、歌わせてください」と。今までクラシカルな歌の勉強をなされてこられたとかで、映画『ライムライト』の主題歌を歌われました。その歌声は、子どもの澄みきった歌声と同じくらい、



柴眞理子 所長



涙が出るほどの感動を覚えるものでした。80代という年齢の方でしたが、これを表現したいという思いが十分に伝わりました。この自己表現を一生続けていくということが芸術の高みへの課程ではないのか、と私は勉強させていただきました。

面接授業に多彩な芸術を、 永遠の若さでさまざまな芸術に チャレンジを

青山 ありがとうございます。さて、時間がまいりました。最後に一言ずつ、学生の方へのメッセージなどありましたらどうぞ。

宮野 私は、地域で芸術活動をなされている、あるいはとても熱心に芸術に関わられている学生の方を紹介する放送があってもいいのではないかと考えます。芸術はややもすると孤高な作業と捉えられがちです。もっと地域に開かれた精神的なものとして取り上げられていいと思います。放送大学は放送が強みですので、そういうネットワークができればすばらしいと。

筑和 北海道学習センターでは美術に人気があり、1学期は「美術史」を、2学期では「実技」を行っていますが、素材が油絵から日本画に変わっても、ずーっと受講者数が変わりません。先代の所長の頃から同じ傾向です。また、2013年から富良野の演劇集団の方に来ていただいて、身体を動かす、演劇でコミュニケーションを図るというユニークな面接授業も展開しており、こちらも人気です。授業を覗きましたが、実に真剣で楽しそうでした。身体を動かす、ということは人間の根源的な意味を見出す作業なのかもしれません。これからも面接授業に北海道ならではの芸術を組み込んでいきたいと考えます。

石川 高知でも「彫刻入門」など実技を伴う面接授業は人気です。驚くのは、皆さん、とてもチャレンジングだということです。新しいことに果敢に取り組みながら自分のものにしておられます。私が担当する「工芸」でもビデオ等を通して日本工芸の実際を展覧しますが、皆さん熱心にご覧になられています。これからも工芸の豊かな世界に触れていただき、生活を芸術で彩ってほしいと思います。

柴 フラダンスがブームで、子どもは減ってバレエ教室などは大変なにご年輩の女性の方がたくさん参加されます。その理由の一つは変身願望…開放的な衣裳を着たりお化粧したり。踊りの経験はないけれど踊ってみたら爽快な気分になった、お洒落も楽しめた、と。中には「膝の悪いのが良くなった」と健康面の効果を強調される方も。そして、そこから入ってさまざまなジャンルの舞踊に興味をもたれる方も出ています。放送大学の学生の多くはこの方々と年代が重なり、舞踊にもそれなりの関心があると思います。本日は皆さんとお話するご縁をいただき参考になりました。舞踊を学問的にどう捉え、実技を採り入れるにしても学生の方に何を伝えるかを明確にした上で、私なりの面接授業を持ちたいと考えます。

青山 ありがとうございます。世界はとても多様で豊かで複雑です。関わり方は一人ひとり違い、その違いが芸術においても出てくると言えます。石川先生は放送大学の学生の方をチャレンジングだとおっしゃいました。その意味では「若さ」と言ってもいいかもしれません。何事にもチャレンジする情熱、経験に裏打ちされた多様で豊かな感受性…放送大学の学生の方の芸術との関わり方はとても豊かなものであると再認識しました。私が指導しているある学生の方は、仕事を辞めて卒論のテーマにした芸術の分野に人生の重心を移していらっしゃいます。これからも、永遠の若さで以て、さまざまな芸術に取り組んでほしいと思います。本日はありがとうございました。



面接授業への誘い

—地域学習センターいきいき授業—

面接授業は、全国の学習センターで年間約3,000クラスを開講しています。中でもユニークな面接授業をいくつかご紹介します。

全国の面接授業①

新潟学習センター



佐渡島の生物多様性と自然再生

担当講師/本間 航介 (新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター准教授)
実施日/2014年11月15日・16日

佐渡島には新潟大学の研究施設が3つあり、それぞれが森林・里地・海洋をフィールドにして研究を行っています。今回は、これまでの研究を元に「佐渡島の自然環境とスギ天然林」と、「トキの野生復帰と自然再生」の2つを軸に講義を組みました。

佐渡島は本州で大問題になっている獣害の影響がなく、また江戸時代以来保護されてきたスギ天然林が大学の森になったこともあり、大学の森は国内屈指の高い自然度を保持しています。日本海側の屋久島とも言える立派なスギ天然林の成立には霧と雪と風が深く関与しています。

トキ野生復帰については、我々は事業実施機関のひとつとして活動を展開してきました。トキの生息地である里山の自然は常に社会や経済の裏付けの元に存在し、時代の趨勢によって大きくその形を変化させますが、生物たちにとって、その変化はときに地球上からの絶滅をも意味します。社会と生物多様性の関係についてトキを題材に考

察してみました。

受講者の感想

トキが絶滅に瀕した大きな原因として、肉や羽毛をとるために、明治初期には数多く生息していたものが乱獲されて急速に減少したこと

は驚きでした。トキが野生復帰できるよう自然を再生する取組みが他の生物の生態系を維持するのに必要であることを痛感しました。(大島三男さん)

「佐渡島は東日本の冷温帯の要素と西日本の暖温帯の要素の双方を持つ生物多様性の非常に高い島で日本の自然の縮図のような場所です。」という授業内容の案内文に興味を湧き受講しました。里山問題のかかえる大きさが佐渡の自然環境の変化やナラ枯れ、トキに凝縮されていることが理解できました。(高橋フミエさん)



全国の面接授業②

山梨学習センター



ワインの科学

担当講師/岸本 宗和 (山梨大学ワイン科学研究センター准教授)
実施日/2014年11月15日・16日

ワインは、酵母が果実の糖を直接アルコールに変換する最も単純な発酵によって造られます。しかし、ブドウの品種、栽培地の気候や土壌、発酵に関わる微生物のはたらき、醸造方法、熟成、造り手の情熱と技術などの様々な要因によって、驚くほど多彩で複雑な味わいが生まれ、古くから人々を魅了し続けています。

本講義では、ブドウが発酵、熟成を経て華麗にワインに変身する過程を科学的な視点で学びます。ブドウの品種と栽培、ワインの醸造と微生物のはたらきについて平易に解説し、ワインの香りや味に関する成分についても簡単な実習を交えながら学習します。さらには、山梨大学ワイン科学研究センターのワイン醸造施設の見学とワインのテイスティングを通して理解を深めていきます。

ワインの奥深さを知り、日常生活の中でワインを楽しむための知識を身につけられる講義にしたいと思います。

受講者の感想

・講師の先生から、長年のワイン造りの経験を踏まえた総合的視点で基本的なポイントを教えていただき、さらに香りの体験やテイスティング実習で知識を深めることができました。

・ワインという嗜好品を科学的に論理的に教えてくださり新しい魅力を発見することができ、味覚の実験形式学習では理解も関心も深まり興味も増した。





みかん学入門 — 有田ミカンに学ぶ

担当講師/宮本 久美 (前和歌山県果樹試験場栽培部長)
実施日/2014年11月22日・23日

和歌山県有田地方は、約3,900haのミカン園が海岸線から標高約300mの山上まで広がる全国有数のミカン産地です。果樹は適地適作適品種が大原則ですが、430年以上の栽培歴史を持つ有田ミカン産地は、このことを体現する絶好の教材です。美味しいミカンを生み出す気象や土壌、立地などの自然環境、これに呼応するミカン樹の生態と代謝生理について解説します。様々な栽培技術がこれらを基礎に構築されていることを示し、農業は科学であることを納得してもらいます。同時に、生業としてのミカン農業について、流通販売の現状と農家の実態、産地の新しい取り組みを紹介します。過去の講義では、受講生の皆さんからミカンの消費拡大や産地振興のための新しいアイデアやアドバイスをいっぱいいただきました。収穫期の黄金色に輝くミカン山に登り、最先端のセンシング装置が稼働する選果場を見学すれば、お店に並ぶミカンが今迄とは違って見えてくるはずです。



● 受講者の感想

美味しいミカンづくりの基礎理論・ミカンの栄養生理・流通・今後の取り組み等々を学術的な理論と長年携わってこられた経験からご指導頂きました。

土壌と気象条件がそろってこそ高品質なミカンができる事。摘果・剪定・散水等条件を満たすような栽培管理が必要であり、ミカンは常緑樹であることから特にその技術が品質や生産量を左右する果樹であることを学び、みかんづくりは奥が深いと思いました。「農業はサイエンスだ!」心に残った一言です。(土谷由味さん)



徳島の偉人に学ぶ

担当講師/石川 榮作 (徳島大学総合科学部教授)、他3名
実施日/2014年11月8日・9日

徳島県出身あるいは徳島県にゆかりのある偉大な4人をピックアップして、その軌跡や業績、考え方について4名の講師からそれぞれ紹介をいただいた。

長井長義は、日本の化学の道を切り拓いて薬学の礎を築いた日本薬学の父とも呼ばれている人である。薬学発展に寄せる彼の「こころざし」を映画化するのに尽力された渋谷雅之氏により熱く語られた。

鳥居龍蔵は、日本各地から東アジアの広い地域を訪ね、日本人と日本文化の起源を追い求めた考古学研究者である。県立鳥居龍蔵記念博物館に詳しい石尾和仁氏から彼の生涯と研究成果の報告があった。

賀川豊彦は、近代日本における社会的弱者の救済のため、生涯を人間愛に基づく平和と助け合いの運動に捧げた人である。彼の活動、思想等を賀川豊彦記念館長の田辺健二氏が詳しく紹介した。

松江豊寿は、俘虜として収容されていたドイツ人に対して大変人道的な扱いをされた人である。日本が誇れる板東俘虜収容所の管理方法やその思想の背景について、石川榮作氏から紹介があった。

最後に、偉人達に学ぶ視点での全体総括があった。

● 受講者の感想

・徳島県人ですが、日本を代表する偉人が徳島にも多くいたことを知らなかった。大変感動しました。

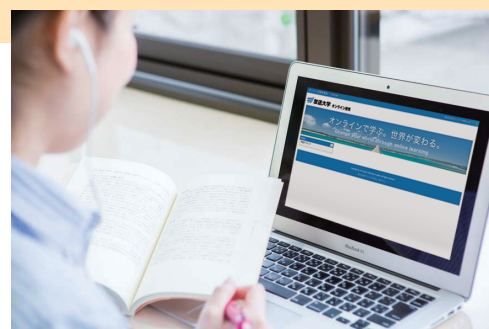
・偉人たちの苦労やエネルギーはすごい。語学力、柔軟性、包容力、妻の貢献などが共通していた。

・受けて良かった。次回も企画してほしい。



オンライン授業の 開始にあたって

放送大学学務担当理事・副学長 來生 新



放送大学の授業は、放送授業と面接授業の2種類のみで行われてきました。近年、放送授業のネットでの視聴が可能になっていますが、これは放送授業をインターネット配信しているだけのものです、放送から切り離された「オンライン授業」ではありません。

放送大学が設置された30年前は、世界中のコンピューターを通信回線でつなぐ技術はまだ実用化されておらず、遠隔教育を実施する手段は伝統的な郵便と放送しかありませんでした。そのような制約の中で、放送大学は放送を活用して大学教育を全国に展開する日本唯一の大学として発展してきました。しかし、この30年の電子技術の発展によって、放送によらずに、遠隔地の不特定多数の人に、瞬時に双方向性でのコミュニケーションを可能にする、インターネット通信が実用化されました。

現在では多くの通信制大学のみならず、通学制の大学でもこの技術を利用した授業を行っています。卒業に必要な単位すべてをオンラインで受講でき、単位認定の試験もこの技術を利用して在宅で受けることができることをうたう通信制大学も出現しています。放送大学は「放送大学学園法」によって設立され、大学の行う授業は放送と面接に限定されていました。そのために、これまでは放送によらずインターネットだけで配信する「オンライン授業」の提供ができませんでした。しかし、時代環境の変化の中で、放送大学がオンライン授業を

配信することについて、関係官庁の了解を得ることができ、来年4月からのオンライン授業配信に向けて、現在その制作や制度化の準備を進めています。

オンライン授業は、インターネットの持つ双方向性の活用を前提とする授業です。授業の内容の理解を確認する小テストを受講生が受けて、その結果を直ちに確認しながら受講を進め、通信指導もオンラインで行い、キャンパスネット上の諸機能との組み合わせ、あるいは授業の中でも、教える側と教わる側の様々な双方向情報交換を行うことができます。放送大学は、来年度、特例制度により、保育士が幼稚園教諭免許状を取得するための5科目のうち2科目をオンライン授業で配信し、その後大学院科目を中心に順次オンライン授業の数を増やして行くことを計画しています。

オンライン授業の開始により、社会のニーズに応じた多様な多数科目の提供が可能になり、これまでの単位認定試験一本での成績評価方法も変えることができます。放送大学はこれまで通り、放送を軸にしながら、それを補う双方向性を持つ授業として、面接授業とオンライン授業を展開する新しい時代に入ります。今はコンピューターの操作のできない学生諸君も、これを機会にぜひその技術を習得して、情報化時代の恩恵を享受する能力を身に付けてください。情報技術は老若男女を問わず肉体の限界を超えることのできる素晴らしい技術です。履修方法等については今後さまざまな手段で周知しますので、ご期待ください。

2015年度 オンライン 開設予定科目 【6年開設】*1単位	科目名称	科目 区分	系・コース	主任講師
	教育課程の意義及び編成の方法('15)	専門	心理と教育	福元 真由美(東京学芸大学准教授)
	幼児理解の理論及び方法('15)	専門	心理と教育	中澤 潤(千葉大学教授) 砂上 史子(千葉大学准教授)

放送大学の国際活動について

放送大学教授(自然と環境) 岸根 順一郎



AAOU2014 Best Paper Award授賞式。
山田教授(右端)のグループ

学生さんから見ると、放送大学が国外へ向けてどんな活動をしているかを直接知る機会はほとんどないと思います。しかし、放送大学もアジア、そして世界の教育機関を巡る大きな変動のただなかにいます。アジア太平洋エリアをぐるっと見渡しただけでも、韓国、中国、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ、インド、パキスタン、スリ

ランカ、フィジー、イラン、トルコ、オーストラリアといった国々がそれぞれ放送大学と同様の「公開大学」を持っています。一国に複数の公開大学を持つ国もあります。

わが放送大学の国際活動の中心は、こうした国外の公開大学との交流を通じた情報の共有や連携です。例えば、

ごく最近では10月末に香港公開大学で開催されたアジア公開大学連合年次大会(AAOU2014)に岡部学長、山田教授(情報コース)と岸根の3名が参加してそれぞれ講演を行いました。この会合はアジア各国の公開大学関係者が会して各国の現状と展望を議論しあうもので、毎年開催されます(2012年には本学が主催校でした)。

今回、岡部学長はJMOOCの現状と展望について基調講演をされました。質問に立つ人が絶えず、アジア各国が日本のオンライン教育に熱い視線を向けていることがよく判りました。また、山田教授を含む日本のグループの講演(論文)が、発表された総数140近い論文の中から銀賞に選ばれたことは特筆に値します。

アジア地域のインターネット普及率は目覚ましい伸びを見せていますが、その結果生じたグローバル化の波は、同時に「公開性」や「遠隔性」が孕む複雑な問題を次々と浮き立たせてい

ます。これらは公

開大学の存立を左右する問題です。私はこの分野の専門家ではありませんが、3日間の会議を通してアジア諸国の教育者が難題に対して情熱的で前向きな取り組みを続けている様子を見聞することができました。何より彼らの底抜けの明るさが印象的でした。会議後の夕食会では、マレーシアやフィリピンの公開大学関係者大勢が壇上に躍り出てダンスや合唱を披露したり、カラオケを2曲歌う学長が現れるなど大いに盛り上がりました。こうした様子を見ていて、瞬発的に明るくなる(ハイテンションになる)スキルを磨くとアジア外交が円滑にいくのではないかとふと思った次第です。

AAOUはアジア地域の公開大学がメンバーですが、より広く遠隔教育に関する情報交換とその振興を図る組織としてユネスコのNGOの一つである国際遠隔教育会議(ICDE)があり、現在の加盟国は70カ国以上にのぼります。放送大学は2000年より加盟し、ICDE主催の世界大会や学長会議(SCOP)に積極的に参加して交流の実績を上げています。

放送大学の国際活動を推進する実働部隊として、幕張本部の教職員をメンバーとする「国際交流委員会」があります。委員会の主な活動の一つが放送大学国際シンポジウム(OJIS)の開催です。今回は「障害のある学生への支援—高等教育とICT活用—」というテーマで2015年2月13日(金)に幕張メッセ国際会議場で開催されます。関心をお持ちの方はどうぞご参加ください(詳しくは大学ホームページ参照)。



前回の放送大学国際シンポジウム(2014年2月)でのパネルディスカッションの様子。進行は青木久美子教授(情報コース)

研究室から地域への発信

認知症の人も、そうでない人も、地域で暮らす一人ひとりが力をあわせて、認知症になっても安心して暮らせるまちを作る。そんな目標を掲げ、2007年から認知症フレンドシップクラブというNPOを立ち上げ、活動を続けています。フレンドシップの活動の一つにRUN伴(ラントモ)というイベントがあります。RUN伴の目的は、一つに、私たちが暮らす地域の中には支えを必要としている認知症の人がいるということ、同じ地域に暮らす多くの人達に知ってもらうということ。また、地域に暮らしている認知症の人やご家族にも、暮らしている地域の中にはたくさんの仲間たちがいるということを知ってもらうこと。さらに、地域の一人ひとりが認知症をタニンゴト、ヒトゴトとして捉えるのではなく、ジブンゴトとして考えていくきっかけ作りをしていくことにあります。2011年に函館—札幌間の300kmから始めた

このイベントも、4年目を迎えた今年は帯広から広島までの2500kmを延べにして約3000名



函館市長へタスキをつなぐ

の参加者が一つになりタスキをつなぎます。今年のタスキは2014.9.22.現在、南東北ステージを終え次の関東ステージへとつながっています。また今年も、現在までに北海道の帯広市長、登別市長、函館市長をはじめ、岩手県知事も参加してタスキをつないでくださるなど、それぞれの地域での活動に深まりを見せています。今後も、全国のそれぞれの地域が誰にとっても安心して暮らしていける地域へと変わっていく、そんなきっかけ作りを仕掛けていけたらと考えています。

数理科学セミナー通信特別号

自然と環境コース・
自然環境科学プログラム 教授 石崎 克也

主体的に設定した自分の研究計画に沿って、研究・学習をひと月の間に進め、プレゼンテーションの準備をする。慣れないうちは、とても負担に感じるかもしれません。しかしながら、毎月ごとに研究ノートが積み重なって行って、研究が進展したときの喜びは、例え様の無いものです。

このような、喜びを知ってしまった人々が全国各地から、毎月、数理科学セミナーに集まります。自然環境科学プログラム石崎研究室では、同じ数理領域の隈部研究室と合同で数理科学セミナーをおよそ毎月1回企画しています。講演者は基本的に前期博士課程(修士)の院生の皆さんですが、OBや他大学の教授の先生も参加して下さって、活気ある場所になっています。数学の研究は、短期的に終わることは少ないですから、OBの皆さんの助言や講演も数理科学セミナーには欠かせないものになっています。石崎研究室では主に解析系の研究課題を取り扱っています。

6時間以上に渡り数学を討論した後には、必ず懇親会を開いています。懇親会でも数学の話が続くこと

も多いのですが、少し砕けた内容になることもあります。数理科学セミナーでは、聞くこととの出



来ない歴史的背景や、著名な定理のプラスブシロンのお話も飛び出して、懇親会の方が勉強になると感じている院生もいるかもしれません。

●学生の声● 1ヶ月分の勉強の成果と研究の進捗状況をなるべく嵩上げて見せかけるために、セミナーの3日前からは夜遅くまで発表用資料の準備に没頭します。万全なつもりで臨んでみたものの、肝心の資料が文字化けしていたり、読み上げるためのメモを自宅に忘れてきてしまったり。それでも、先生方やみなさんに助けられ励まされながら、楽しく参加しています。「数理科学」というお堅い名前ですが、とても親しみやすいセミナーです。(M1板倉麻紀)

富山学習センター

富山県射水市黒河5180(富山県立大学計算機センター3階) 〒939-0311
JR小杉駅南口徒歩20分(約1.5km) 電話:0766-56-9230

富山学習センターは、富山県西部の射水市、富山県立大学のキャンパス内にあります。太閤山丘陵の木々に囲まれた静かな場所にあり、現在、教養学部・大学院を合わせて約800名の学生が所属しています。平成4年の開設時から20年以上も続けて在籍し



学習センター外観

ている方もいらっしゃる、当センターが生涯学習の場としても十分機能していることがわかります。

学習センターの地域貢献事業としては、「薬の富山」の特色を活かし、NPO法人との共催で富山健康セミナー「漢方を健康に役立てよう」と題した漢方薬関係の公開講演会をこれまで4回開催しています。漢方診療、薬用植物の栽培などをテーマに一般の方にもわかりやすい内容で、毎回約100名の方に参加いただき、放送大学の認知度向上にも寄与しているものと考え

ています。

また、今年度は立山黒部ジオパーク推進協議会と協働した地域の魅力発掘発信プロジェクトを進めて



プロジェクト活動の様子

います。このプロジェクトは、放送大学学生を含む一般住民がジオパークの構成要素となる貴重な自然景観などの見どころ(ジオサイト)を調査・取材して冊子を作成し、情報発信するものですが、地域振興だけでなく、地域リーダーの育成も目的としています。現在の参加者は約20名で、今後も調査・取材を進めてミーティングを重ね、来年2月に冊子を発行する予定です。

富山学習センターには、特色ある面接授業も開講しています。来年3月からは北陸新幹線が開通し、都心とは2時間余りで結ばれます。機会があればぜひ富山にお越しください。

広島学習センター

広島県広島市中区東千田町1-1-89(広島大学東千田キャンパス東千田総合校舎内) 〒730-0053
JR広島駅・西広島駅・横川駅から路面電車・バスで約20～30分 電話:082-247-4030

広島学習センターは市内中心部に位置する広島大学東千田キャンパスの一画にあります。広島大学との合築による建物は快適でゆとりのある学習環境を提供しており、約1,500人を数える学生がここで学んでいます。その中のお一人沖秀雄さんが2013年度に、前年度の平山英子さんに続いてグランドスラムを達成されました。93歳という全国最高齢での偉業でした。広島学習センターの誇りとするところです。

最近の新しい試みとしては「卒業研究事前支援」と「自主ゼミ」があります。前者は卒業研究を目指す学生のみなさんが申請書をスムーズに作成できるよう支援するものです。客員教員がそれぞれの学問分野ごとに、毎学期4回にわたって、研究テーマの決め方、参考文献の調査・収集、研究の方法などについて具体的に助言しています。後者は学生有志が自発的に始めた活動で、読書の仕方、議論の方法などを体得しようとするものです。

行事では研修旅行とは別に、2005年度から年に一度「自然観察会」を行っています。近辺の自然豊かな地を訪れて、専門家の案内・解説つきで自然観察を楽しんでおり、好評を博しています。またサークル活動では新たに「花かわいがり同好会」が立ち上がりました。学習センター内の廊下の窓辺な

どを鉢植えの花や観葉植物で飾って、潤いある学習環境の整備に貢献しています。親しみやすく、活用しやすい学習センターをめざして職員一同、日々努めています。



自然観察会の様子

自然科学 はじめての一步 ('15) 基礎科目

放送大学教授 (自然と環境) 岸根 順一郎 放送大学准教授 (自然と環境) 大森 聡一

この科目の担当講師5人は、「科学が嫌いだ」という人はいないと信じています。「とっつきにくい」あるいは「きっかけがつかめない」だけなのだと思います。宇宙の起源、自然災害、原子力、環境問題、iPS細胞、数学の難問、ノーベル賞などなどについてのニュースに触れて、自然科学が「確かに気になる」という瞬間はどなたにも訪れているのではないのでしょうか。この科目の目的は、こうした方々が自然科学への「はじめての一



岸根 順一郎 教授



大森 聡一 准教授



(聞き手) 篠原ともえさん

歩」を踏み出すお手伝いをすることです。放送授業では、聞き手に篠原ともえさんをお迎えし、実験やロケを交えた授業を展開します。この科目でお伝えしたいのは「自然現象に対する見方・考え方」です。講師達自身が自然をどう眺め、どのように自然科学にアプローチしているかを平易な言葉でお伝えします。さらに理解を深めるために、印刷教材を活用して下さい。5人の講師と篠原さんと一緒に「はじめての一步」を踏み出してみませんか。

教育学入門 ('15) 共通科目

放送大学准教授 (心理と教育) 岡崎 友典 東京成徳大学教授 (放送大学客員教授) 永井 聖二

教育は人間の成長・発達が、当該社会の多様な領域、とくに社会構造と文化に規定されつつも、人間をより望ましいものとして方向付けるものです。個人的・生物学的な人間の発達の側面に重点をおくか、それとも社会の構造・文化への同化を重視するかによって、多様な教育理論が展開されてきました。

本科目では、教育の歴史、教育思想・哲学、心理学、社会学など人文・社会・自然の諸科学が蓄積してきた教育の理論を概説し、教育現象を科学的に捉えるための、基本的な知識と技術(方法)について講じます。



岡崎 友典 准教授(左)、永井 聖二 客員教授(右)

教育については、個人の生活体験とくに学校教育や子育ての体験から、多様な教育観(考え方)が存在しますが、教育を個人的な見解の相違で捉えることは、急激な変動をともしなう社会を担う人材を育成するうえで有効ではありません。個人の体験を大切にしながらも、教育現象を主観的にではなく、客観的・科学的に捉える力をつけることを目標としていますので、各コースの多くの皆さんが、履修していただけることを期待しています。

貧困と社会 ('15) 共通科目

神戸大学大学院教授 (放送大学客員教授) 西澤 晃彦

「貧困と社会」は、もちろん、貧困について考えるための講義ですが、てっとり早く実践や政策に結びつくような議論をしようとは思っていません。そもそも、私たちの社会は長く貧困を忘却してきたし、今も真正面から貧困に向き合おうとしている訳では決してありません。ですから、そのような社会にあって、貧困とつきあい向き合う方途と、また、貧者を迎え入れる社会の拡がりについて、じっくり考えることが先だろうと私は考えていま



西澤 晃彦 客員教授

す。「答え」を期待されても困ります。「問い」を何とかたててみてひとまず考えてみる。そういう時間が始まればいいと思っています。私は社会学が専門ですので、どうしても「社会学というものの見方からすれば」といった話をたくさんすることになりますが、それによって、受講される方の中に、自分自身のあるいは自分が出会う他者の貧困体験がもつ意味の理解への糸口が生まれればいいと期待しています。

ドイツ語I・ドイツ語II('15)

共通
科目



清野 智昭 客員准教授

千葉大学准教授
(放送大学客員准教授) 清野 智昭

ドイツ語はドイツを中心に合計約1億人の話者を持つヨーロッパで最大の言語です。ドイツはEUの中心国であり、政治的にも経済的にも非常に大きい存在です。また、バッハやモーツァルトなどの音楽、ヘッセやカフカなどの文学、カントやニーチェなどの思想に惹かれる人も多いでしょう。また、ドイツでは環境に対する意識が高く、再生可能なエネルギーにシフトしようとしています。そんな国の言葉ができれば、英語の情報だけではわからない色々なことが見えてきます。ドイツ語

は文法が難しいと思われがちですが、逆に言えば規則をきちんと覚えてしまえば、とても理解しやすい言語です。テレビ科目のIでは日本人学生のカナとドイツを体験してみましょう。ラジオ科目のIIではミステリーが待っています。放送教材、印刷教材ともに自然な会話で無理なく基本的な文法をマスターできます。また、文化的な情報も扱っているので、楽しみながらドイツとドイツ語に触れてください。

今日のメンタルヘルス('15)

専門
科目



石丸 昌彦 教授

放送大学教授
(生活と福祉) 石丸 昌彦

『今日のメンタルヘルス('15)』は同名の2011年度科目の改訂版です。一般には「精神保健学」と称される内容を網羅し、メンタルヘルスについての基礎的な知識理解を提供するもので、現代人の必須教養といっても過言ではありません。医師2名、心理学者3名の講師陣による労作を、毎学期平均して2,000人以上の登録者が熱心に受講し、その様子に私たちも大いに励まされてきました。

そして2015年度の再出発にあたり、『今日のメンタル

ヘルス』はテレビ科目として面目を一新することになりました。本稿執筆の時点で、各講師は放送教材制作に向けての取材やロケのため、忙しい中を文字通り東奔西走しています。メンタルヘルスの現場の熱気を伝える数々の映像が、皆さんの学習をより深め、豊かにすることでしょう。

心の健康がますます大きな関心を呼ぶ今日の情勢の中で、ひとりでも多くの方がこの科目を受講されるよう願っています。

現代日本の政治('15)

専門
科目



飯尾 潤 客員教授

政策研究大学院大学教授
(放送大学客員教授) 飯尾 潤

現代日本の政治といえば、テレビや新聞で毎日情報が提供され、多くの人々が否応なく接している事象です。そこで、たとえば政治の話題が出るとき、政治家に対する好き嫌いで盛り上がるかもしれませんが、それだけでは政治を理解することはできません。なぜ、こんなことが起こっているのかとか、どういう手順で結論が出てくのか、などに関しては、基礎知識が必要だからです。そこで、日本の政治について「なぜ」という問いかけを大切にしながら、多面的に解説するのがこの講義の目

的です。講義のなかでは、ことさら理論を強調したり、覚えるべき学術用語を並べ上げるよりも、政治家などとのインタビューなども取り込んで臨場感を出すように努力し、受講者が政治を自分のものとして理解できるように気をつけています。そこで、従来から政治に関心を持っていて、より深く知りたいという人だけではなく、なんだか政治はよく分からないといった人にも受講していただきたいと考えています。受講することで、日本の政治が身近なものになればと願っています。

韓国朝鮮の歴史('15) 専門科目

放送大学教授
(人間と文化) 吉田 光男



吉田 光男
教授

日本にもっとも近い外国であり、日本列島の歴史や文化の形成と深い関係をもってきたのが朝鮮半島です。しかし、そのわりにその歴史について、日本ではあまりよく知られていません。この講義では、朝鮮半島を主な舞台として展開してきた歴史を、古代・高麗時代・朝鮮時代・近代と、時代を追いかけてながら第二次世界大戦後から現代に至るまで、通史的に見ていきます。政治的事件の生起を時間軸の中心に置いて、基本的な歴史の流れや事実関係を押さえていきます。その中

で、とりわけ焦点を当てたのが社会の様相です。それぞれの時代に、人々が置かれていた社会状況、あるいはその中で結ばれていた社会的結合のあり方などを見ることを通して、韓国朝鮮の人々が歴史の中でどのように生きてきたのかを跡づけていきます。韓国朝鮮社会で展開してきた歴史を理解することで、この地域の歴史的魅力を発見し、ひいては日本の歴史に対する理解も深めることができるでしょう。

分子分光学('15) 一分子からの手紙を読む 専門科目

放送大学教授
(自然と環境) 濱田 嘉昭

放送大学准教授
(自然と環境) 安池 智一



濱田 嘉昭
教授



安池 智一
准教授

分子がナノメートル程度の大きさで、それぞれに固有の形や性質を持つことは化学の基本です。ところで一体、これらのことはどのようにして分かったのでしょうか。目には見えない分子を“見る”有力な方法の一つが分光法です。分子と相互作用した後の光のスペクトルを観測することで、分子が“見えてくる”のです。スペクトルは分子からの手紙とも言えるものです。分子はミクロの世界の住人なので、この手紙は量子力学の言葉で書かれています。彼らから届いた手紙の解読

のために、分子の量子力学についても学んでいきます。ところで分光学では光を分析します。したがって、試料を濃縮したり抽出したりする必要は必ずしもありません。また、試料は手元にある必要さもなく、宇宙の彼方にあってもいいのです。これらの優れた特徴のために、分光測定は自然科学はもちろんのこと、皆さんの生活のあらゆる場面で利用されています。分子分光学の世界へようこそ。

証券市場と私たちの経済('15) 総合科目

同志社大学教授
(放送大学客員教授) 野間 敏克



野間 敏克
客員教授

近年、リーマンショックのような証券市場で生じた問題が、金融システム危機から世界経済の混乱につながるものが生じやすくなっているように思います。証券市場は、情報通信技術の発達や金融技術革新によって様変わりし、社会的役割や経済に与える影響も変化してきました。日本では、国民の大多数が預貯金を貯蓄手段とし、証券市場との直接的関係は薄かったのですが、企業や政府は証券市場に大きく依存し、銀行や投資信託を通して、間接的には、証券市場と

私たちのとの関係は強まっています。この科目では、重要性を増している証券市場の仕組みを学び、それが私たちの経済社会に与える影響を幅広い見地からとらえます。まず、証券市場の仕組みと機能の基礎を学び、新しい証券投資の手段や金融技術を知りましょう。そしてその上で、それらを生活者として利用するために、証券市場の動向を見る目を養い、経済社会に与える影響を理解することをめざします。

生活ガバナンス研究('15)

放送大学副学長 宮本 みち子 放送大学教授 (生活健康科学プログラム) 奈良 由美子



宮本 みち子
副学長



奈良 由美子
教授

現代生活は高度に社会化が進み、個人や家族の生活経営ではむずかしい課題が増加しています。これらの課題を解決するために、私たちは必要に応じて、組織や活動に参加することが求められ、家庭内の経営とは異なる新たな知識やスキル、また、交渉や調整の力が重要性を帯びてきます。現代では、統治・管理・支配のような旧来型のガバメントから、住民やNPOなど多様な主体が協治・共治・協働するガバナンスの展開が求めら

れます。その中で、生活のあり方や生活を取りまく社会、経済、自然を含めた環境のあり方について、生活者自身が利害を調整し、交渉し、生活環境を変えていく営みを、生活ガバナンスといいます。この科目では、生活ガバナンスが問われる代表的な領域として、生活、生活教育、消費者、子ども、若者、高齢者、犯罪、災害、食、住まい、仕事、環境、社会的排除という13の領域を取り上げます。

現代社会心理学特論('15)

放送大学准教授 (人間発達科学プログラム) 森 津太子



森 津太子
准教授

本科目は「現代社会心理学特論('11)」の後継科目です。基本的には前科目のコンセプトを引き継ぎ、次の2つ点で社会心理学の“現代性”を強調する内容になっています。それは第1にトピックの“現代性”で、本科目では、社会心理学において、かねてより重要とされてきたトピックに加え、自動性、感情、文化など、最近になって急速に注目を集めるようになったトピックを積極的に取り上げています。2つ目は研究アプローチの“現代性”で、20世紀終盤に発展した社会的認知アプ

ローチを主軸としながらも、より学際性を帯びた取り組みである経済学との融合や、人間の社会的行動を環境への適応の産物ととらえる進化論的な考え方、人間の社会的行動の脳神経生理学的な基盤を探ろうとする研究など、新たな研究アプローチの動向を紹介しています。これらを通じて、社会心理学が現在もおお発展し続けている、ホットでわくわくするような学問分野であることをお伝えできればと思っています。

日本史史料論('15)

放送大学教授 (人文学プログラム) 五味 文彦 放送大学教授 (人文学プログラム) 杉森 哲也



五味 文彦
教授



杉森 哲也
教授

本科目は、大学院で唯一の日本史関連科目です。このため本科目では、学部の日本史関連科目のように時代の枠で限定することなく、特定の主題を通史的に取り上げること基本的なコンセプトとしています。これは前科目「日本の歴史と社会('09)」のコンセプトを引き継ぐものですが、主題は前科目では都市、本科目では史料であり、講義内容は全く異なります。

本科目の主題である史料は、歴史学研究的の素材です。その正確な読解と解釈は、歴史学研究的の基礎

であるといえるでしょう。本科目では、古代・中世・近世・近代という日本史の四つの時代の史料について、各時代を専門とする四人の講師が担当し、講義します。各時代の史料のあり方を見ることにより、その時代の特徴が浮かび上がって来ることでしょう。そして本科目は、四つの時代の史料を取り上げることを通して、史料という視点から日本史を通史的に展望しようという一つの試みでもあるのです。

学生募集—教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生

広報課・学生課

2015年度第1学期の学生募集を以下のとおり行います。

	第1回募集	第2回募集
出願期間	2014年12月1日～2015年2月28日	2015年3月1日～3月20日
可否通知等	2014年12月中旬～2015年3月中旬	2015年3月中旬～4月上旬
学費の納入	2015年3月19日まで	2015年4月6日まで
入学許可通知	2014年1月中旬～2015年4月下旬	
印刷教材等の配送	2014年2月中旬～2015年3月末	2015年3月下旬～4月末
授業開始	2015年4月1日	

※くわしいスケジュールは学生募集要項をご確認ください。※入学生の面接授業登録申請については、学生募集要項P28をご確認ください。

2015年3月末をもって学籍が切れる学生の方で、2015年度第1学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学科が割引になります。

継続入学手続きがシステムWAKABAからできます。

システムWAKABA > ログイン > 継続入学申請

放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただきますようお願い申し上げます。

Gmailをご活用ください！

広報課

在学生全員にメールアドレスが割り振られています。放送大学からのお知らせはGmailに届きます。普段、使っているメールアドレスに転送もできますので、ぜひご活用ください。

キャンパスネットワークホームページ > メール(Gmail)

システムWAKABAにメールアドレスを登録されている方へ

メールが届かないケースが起こっています。スペルミスなどがないか今一度、ご確認ください。

システムWAKABA > 学生カルテ > 住所・入学資格・試験情報 > E-Mail



2014(平成26)年度放送大学学位記授与式について

総務課

2014(平成26)年度学位記授与式の日程が次のとおり決まりましたので、お知らせします。

日時:2015年3月21日(土)午前11時00分から
場所:NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

編集後記

博士課程にいよいよ第1期生が入学されました。学生の皆さんにとっては勿論のこと、我々教員にとっても、これまでに経験のない大きなチャレンジのはじまりです。各プログラムの先生方からのメッセージにも意気込みやドキドキが感じられ、一端を担う者として気持ちを新たにしているところです。

また新たな試みとして、本号から学習センター所長によるテーマ別座談会がスタートしました。第1回のテーマは「社会人と芸術」です。虚構と現実を軸にして分野を超えた芸術論が展開されており、芸術音痴の私にとっても、感じるどころが大でした。今後も続けていく予定ですのでご期待下さい。テーマについてのご意見も歓迎いたします。(編集委員・安池智一)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2014年度)

委員長	教授	坂井 素思
委員	教授	井出 訓
	教授	御厨 貴
	教授	青山 昌文
	准教授	岡崎 友典
	准教授	森本 容介
	准教授	安池 智一
オブザーバー	副学長	小寺山 亘
編集事務担当		総務部広報課



放送大学

http://www.ouj.ac.jp/ ISSN 1343-3369

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp